

Movies

「獄友」 冤罪のきづな、笑いで描く

冤罪という深刻な題材を扱っているのに事件の真相を語るでもなく、まるでやんちゃ坊主のように獄中での昔話を語り合い、笑い、そして励まし合う5人の“獄友”にスポットを当てる。

金聖雄監督制作ドキュメンタリー映画シリーズ第三弾「獄友（ごくとも）～冤罪青春グラフィティ」が3月24日、東中野ポレポレで皮切りした。ちょっとふざけすぎている、という印象を受ける人もいるかもしれない。でも、冤罪という共通項で強く結ばれた彼らを表すのに、これ以上ぴったりの言葉は見当たらないのだ。

やってもいない罪をきせられ、不当に投獄されたことで青春時代を奪われた主人公たち。その何十年もの獄中生活で偶然出会った仲間、塙の外で再会できるとは彼らも予想だにできなかっただろう。

袴田事件の袴田巖さん、狭山事件の石川一雄さん、布川事件の桜井昌司さんと杉山卓男さんに足利事件の菅家利和さん。みないい年齢だが、千葉刑務所での生活を共にした同期生のようにお互いを慕う。

事件の報道から見えてこない刑務所の中での生活。無実の身で20年、30年と時間が無駄に過ぎていく中で必死に生きてきたことは、彼らの話の端々にかんじられる。

「少ないけれど、その中に喜びもあっただろうと思う。そこで彼らの間では冤罪という横のつながりができた。世間でいう『友情』より結束は強く見え、言葉で説明できないその関係を映したいと思った」と金監督は話す。

フィクションではありえないだろう豪華キャストに、袴田さんの姉の秀子さん、石川さんの妻の早智子さん、そして桜井さんの妻・恵子さんが加わり、脇役も負けてはいない。

「これだけキャラクターが違う5人が揃

っただけでも面白くないわけがない」と金さんは自信満々だ。

関西出身であるだけに、笑いの“つかみ”ははずせない。

それぞれの笑い声の裏に、どんな過酷な生活をしいられてきたのかと思いを馳せないわけにはいかない。「笑っていいんだらうか……」と思いとどまるような題材ではあるが、タイトルどおり、ほんわかした笑いに始終つかまれる。

「説教くさいのは好きじゃない」と話す金さんにとっては、「あれ、この映画って何を言いたかったんだらう？」と考えてもらえることが理想だ。

「俺は投獄されてよかったんだ」と強気の桜井さんが、再審請求中の石川さんと向き合い、一刻も早く冤罪を晴らそうと励ます一場面では、「『やっていない』と言い続けることが、どれだけしんどいか……」とつぶやく。

その一言が観ている側に重くのしかかる――。

そんなストーリーの一片が、ボディープローのようにあとからジワジワくるような映画になることを願うと金さんは言う。

前向きな彼らの生き方を見るだけで、命の尊さや人間の尊厳、そして冤罪をしいた権力について考えざるをえない。

「やっていない人が犯罪をおかしたことにされ、長年刑に服す――こんなおかしいことあっていいの？と、単純でいいから何かしらの疑問をいだいてもらえれば本望です」

~~~~~

『獄友～冤罪青春グラフィティ』（115分）  
3月24日ロードショー 東中野ポレポレ、各地上映。その他、自主上映会などについては要相談。詳細はgokutomo-movie.com